

社会インフラ特集号の発刊にあたって

代表取締役副社長

副社長執行役員

社会基盤・海洋事業領域長 寺 井 一 郎

IHI 技報「社会インフラ特集号」の発刊にあたって、ご挨拶申し上げます。

私は財務をはじめとするコーポレート部門で長く仕事をしてきました。そのような立場ではどうしても業績志向、数字重視になってしまいます。それが2017年より、重厚長大技術の粋ともいべき社会基盤分野を担当することになりました。目の前に現れるのは数字以前の安全、品質といった現実です。そこであらためてIHIグループの技術力、総合力、社会への貢献を実感することとなりました。



社会インフラは何のためにあるのか。それは豊かな社会の実現のためでしょう。そのために、我が国は高度成長期に橋を架け、鉄道や道路を引き、トンネルを掘り、ダムを建設してきました。その目的はいまや一定程度達成されたものといえるでしょう。

さて、私事ですが先日腕の骨を痛めました。全身に200個だけあるという骨の1個を傷つただけで、生活の不便は甚だしいものがあります。社会インフラも同様ではないかと考えました。マクロにはたとえば高速道路網の1か所が切れただけでネットワークの機能が損なわれる。ミクロにはダムの1か所にき裂が入れば安全な運用ができなくなる。多くのインフラが建設後、半世紀を経過したいま、これからはインフラ建設からインフラマネジメントの時代だといえそうです。このような時代の変化のもと、関連する業界にも変化の波が押し寄せ、技術革新が競われています。業界を超えて技術を武器にして競争が激しくなっているのです。この変化をチャンスだと捉えるプレーヤーがたくさんいるのです。

IHIグループもそのようなプレーヤーの一人です。我々は総合力をもったコングロマリットです。長大橋梁を設計する技術、架設する技術、海外でプロジェクトをマネージする技術。それらを支える素材、検査・計測、補修技術。ダム・水門やコンクリート構造物、シールドについても同様です。本号ではインフラをマネジメントするビジネスについて、最新の技術や事例を紹介しています。記事をとおして、あらためて橋梁、トンネル、ダムといったインフラの社会に対する貢献とそれを維持することの大切さをご理解いただければ幸いです。